

月影

平成十九年九月一日（第二十号）

浄土宗西山禅林寺派
せいざんぜんりんじは

常林院

彼の国に至り已つて
か くに いた おわ

六神通を得て
ろくじんつう え

十方界に入りて
じつぽうかい かえ

苦の衆生を救攝せん
く しゆじよう くしよう

発願文より
ほつがんもん
善導大師
ぜんどうだいし

千の風になつて

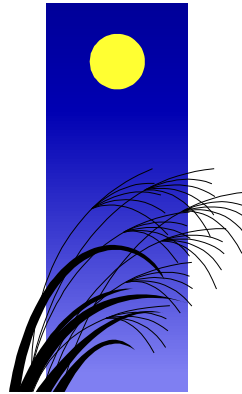
「千の風になつて」の歌が流行っています。

テノール歌手、秋川雅史さんが昨年末の紅白歌合戦で歌い話題になり、現在も異例の売れ行きを続けているようです。

私のお墓の前で泣かないでください

そこに私はいません 眠ってなんかいません

千の風に 千の風になつて



あの大きな空を 吹きわたっています

秋には光になって 畑にふりそそぐ

冬はダイヤのように きらめく雪になる

朝は鳥になって あなたを目覚めさせる

夜は星になって あなたを見守る

この一編の短い詩は、いつだれが作ったのかはわかりませんが、詩の内容が多くの人々の共感を得たようです。最近では同時多発テロで亡くなった父親を偲んで十一歳の少女が朗読しましたが、昔から読み継がれてきた詩のようです。

さて、善導大師は法然上人に大きな影響を与えた中国の僧侶です。始めに書いた「発願文」というお経は、極楽浄土へ往生した後のことを記しています。

極楽浄土に往生しおわって、神通力の力を得て、

再びこの世に帰り、苦しんでいる人々を救うのだ

人は亡くなると、極楽浄土で静かにじっとしているのではなく、苦しんでいる人を救うために、あちらこちらへ飛びまわっているのだと言っています。

善導大師の「発願文」も「千の風になつて」も、読むたびに何かしら癒されるのは、私たちが抱えている故人に対する思いや願い、「死」というものに対しての不安や悲しみを、少し和らげてくれるからかもしれません。

秋の彼岸会のご案内

日時 平成十九年九月二十三日（日）

午後一時 彼岸会法要

先祖塔婆回向

午後二時

お説教

説教師

称讚寺住職

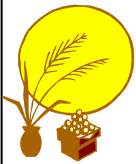
牛ヶ瀬保育園長

嶋本弘修師

場所 常林院本堂

皆様お誘い合わせの上、ご参詣頂きますよう
ご案内申し上げます。 住職

※塔婆回向ご希望の方は、お申し出下さい。



仏事と作法 お彼岸について

お彼岸は、ご先祖さまに感謝する日本の行事です。

また彼岸という呼び方は「到彼岸」を略した言い方からも分かるように、「彼岸に到る」という意味があります。私たちが生きている迷いの世界を「此岸しがん」と言い、反対に極楽浄土の悟りの世界を「彼岸」と言います。

この此岸から彼岸に到るために、次の六つの徳目を実践しましょうと教えています。

- 一、布施ふせ・・・心や財を他人に施す。
- 二、持戒じかい・・・戒を守り、他人に迷惑をかけない。
- 三、忍辱にんにく・・・不平不満を言わない。腹を立てない。
- 四、精進しょうじん・・・常に努力を惜しまない。
- 五、禅定ぜんじょう・・・心を静かに保つ。反省を忘れない。
- 六、智慧ちえ・・・真実を見る智慧。正しい判断力。

平日頃は仕事などで忙しく、心が穏やかになる機会を持つことが難しい世の中です。お彼岸中、お墓参りやお説教を聞いていただくことで、少しでも穏やかな気持ちになり、自己を見つめる機会にしていただけだと思います。